

Lightning Scope

雷・気象情報提供システム「ライトニングスコーププラス」

全国高等学校総合体育大会(一部屋外競技)



全国高校総体、一部屋外競技の運営での 雷情報システムの活用

お客様プロフィール

[全国高等学校総合体育大会 について]

全国高等学校総合体育大会（通称 高校総体、またはインターハイ）は全国高等学校体育連盟の主催により、毎年開催されている高校生のための全国スポーツ競技大会です。



（各種写真はイメージです。実際の活用競技とは異なります）

導入製品・サービス

- 「Lightning Scope+」 (ライトニングスコーププラス)

利用目的

- 人命を守る

全国高等学校総合体育大会の競技を行った ある県（以下 L 県）の実行委員会事務局 担当者に Lightning Scope+を導入した経緯とその効果について詳しく聞きました。

取材日：2015年9月

■ 気象情報の収集体制

— L県総体事務局では Lightning Scope+ をどのように活用しましたか。

L県総体事務局では、Lightning Scope+ を、屋外競技を安全に運営するための気象情報収集システムとして活用しました。活用の概要は次のとおりです。

【対象競技】

- 屋外競技 3 種
(競技会場は事務局から半径 10 キロ圏内に散在)

【準備、設定】

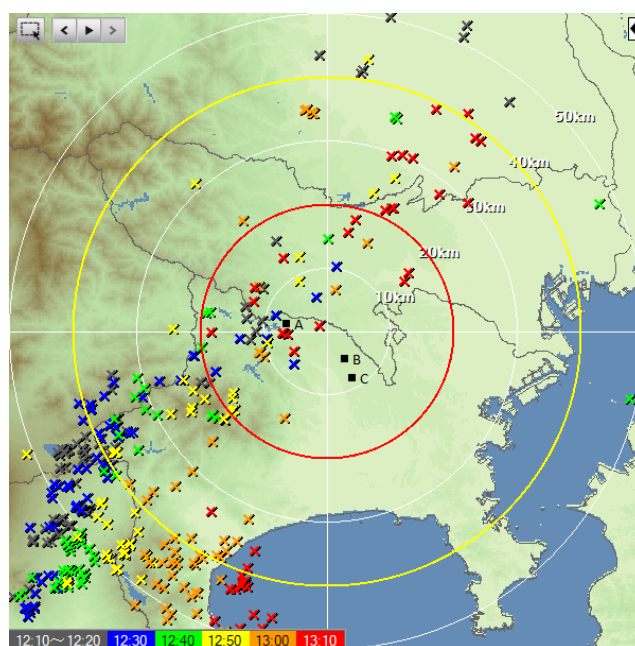
- Lightning Scope+ インストール済みのパソコンを、大会期間中とその前後を合わせた約 2 週間、フランクリン・ジャパンからレンタルで借りました。パソコンは各競技場から 10 数キロ離れたところにある、事務局の建屋内に設置しました。
- まず建屋内のネット回線が十分に使えるものかどうかを、フランクリン・ジャパンからの指示に従いチェックしました。結果は良好でした。
- その後はフランクリン・ジャパンから届いたパソコンをネット回線につないで電源を入れれば、もうそれで使えます。
- 雷の注意範囲や警戒範囲をどれぐらい広く取るかについては、フランクリン・ジャパンに方法を聞いて自分で設定しました。特に難しくはありませんでした。

【大会期間中の事務局での運用】

- 大会期間中は、事務局内に担当職員が宿直体制で泊まり込み、気象情報を 24 時間体制で監視しました。
- 24 時間監視といっても、パソコン画面を 24 時間にらみつづけるわけにはいきません。「異常があった場合は Lightning Scope+ から知らせがくる」というかたちで運用しました。
- 具体的には、事前設定した「注意エリア」、「警戒エリア」に雷が落ちると、Lightning Scope+ の入ったパソコンから警報音が鳴る、という仕組みです。雨量についても一定量を超

えた場合には警報が鳴るよう設定しました。

- 警報音が鳴ると、それを聞いた担当職員は、ただちにパソコン画面を見て、雨雲、風向き、雷に関する情報を認識し、その後ただちに各競技現場の運営責任者に電話連絡して気象情報を知らせます。
- 競技現場の運営責任者には、自分たち周辺の天気のことしか分からないので、事務局からの「南東 20 キロ地点で雷が鳴った。雨雲も大きい。風向きも南東からなので、しばらく後にそちら競技場にも雷雨が起こる可能性がある」といった情報は、非常に役に立ちます。



Lightning Scope+ の表示画面

図中 A, B, C は競技現場の位置を示したものです。

※画像はイメージです。

【競技中断・再開の判断プロセス】

- 競技を続けるか中止するか「最終判断」は、現場の運営責任者が下します。わたしたち事務局の役割は、「現場が適切な判断を下すために必要な情報を確実に提供する」ということとなります。
- 競技再開も、同様に現場裁量で判断します。その判断材料となる「競技場の周辺地域の気象状況」について各競技会場の運営担当者から電話で質問された場合は、事務局は Lightning Scope+ の情報を根拠にして、ただちに回答する必要があります（「調べて 1 時間後に回答します」というのでは役に立ちません）。

■ 雷情報システムを導入することに決めた経緯

- L県総体事務局がLightning Scope+を導入した経緯を教えてください。

今回、屋外競技を開催する場所は比較的、雨や雷が多い場所です。それに加え、近年はゲリラ豪雨など突然の豪雨、雷雨も多発しています。

こうした前提を考えると、競技する生徒の安全を確保し、大会を円滑に運営するためには、雷雨情報を的確に収集するがしくみが必要であると思われました。

このしくみに求める要件は「雷雨情報が、正確に、分かりやすく、タイムリーに取得できること」となりますが、Lightning Scope+はこれら条件をよく満たしており、また各種スポーツ大会での導入実績も豊富だったので、これを採用しました。

■ 実際に使ってみての評価

- 実際にLightning Scope+を使ってみての評価をお聞かせください。

大会期間中、前半はずっと晴れでLightning Scope+の出番はありませんでした。しかし後半の、あるときに会場からやや離れた場所で落雷がありました。現場にその情報を伝えたところ「一時中断」ということになり、その後しばらくして、競技会場周辺には落雷を伴う土砂降りの雨が降りました。Lightning Scope+があったことで、迅速、的確な対応が可能になったといえます。

この他、実際に使ってみて実感したことは、「電話サポートでリアルタイムの情報が得られたことが非常にありがたかった。これがなかったら困ったことになっていた」ということです。

■ 電話サポートの重要性

- 具体的にどのように役に立ったのでしょうか。

Lightning Scope+の画面はビジュアルで分かりやすいので「雷が落ちた」「大きな雨雲が迫っている」「風が強く吹いている」など基本的なことは、素人でも画面を見れば直感的に分か

ります。

しかし画面の片隅で小さいながらも雨雲がつつつと湧き上がっているような、「よく分からないけど何だか怪しい」という現象については、フランクリン・ジャパンの気象予報士に電話して、プロの判断を仰ぐ方が適切だと考えました。

大会期間中、少なくとも数回は電話していますが、フランクリン・ジャパンの気象予報士のみなさんは電話の向こうで、私たちが見ているのと同じ競技場周辺の気象情報の画面を見ながら、不可解な気象情報についてプロの見解をその場で教えてくれました。

この「その場で」というのが重要なところですが、知りたいのは「競技を今、中断してよいか」「競技を今、再開してよいか」を判断するための情報です。つまり「いま」分かることに価値があるので、「調べてから30分後に折り返しご連絡します」というサポートではまったく役に立ちません。

もちろんフランクリン・ジャパンからは、必ず「その場で」回答がありました。おかげで私たち事務局は、競技現場の運営責任者に正確かつタイムリーに情報を伝えることができました。

■ 先輩ユーザーからのアドバイス

- 現在、雷情報システムの導入を検討中のスポーツ大会関係者に「先輩ユーザーとしてのアドバイス」などあればお聞かせください。

今回もし雷情報システムがなかったら、あるいはシステムはあっても電話サポートがなかったら…と考えると、その場合は結局、競技現場の運営者が空を見上げながら、経験と勘を元に競技の中断・再開を判断することになっていたでしょう。それを思えば、今大会では、確かな情報に基づいて根拠ある判断ができたのは良いことでした。

スポーツ大会の性質や規模にも依る部分もあるかと思いますが、システムがあった方がより確実な根拠にもとづいた判断ができることは、まず間違いのないと思います。

■ 今後の期待

— フランクリン・ジャパンへの今後の期待をお聞かせください。

今回、Lightning Scope+の活用により、事務局として「競技現場への正確かつタイムリーな気象情報の提供」という責務を果たすことができました。フランクリン・ジャパンには、今後とも優れたシステムとサポートを通じて、全国の体育大会の円滑・安全な運営に貢献する活動を続けていただくことを希望いたします。今回はどうもありがとうございました。

全国高等学校総合体育大会 L 県実行委員会事務局 担当者様、本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

取材制作：株式会社カスタマワイズ

株式会社フランクリン・ジャパン

〒252-0212 神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-12

■ 製品・サービスについてのお問い合わせは

 **042-775-5656**

■ 製品・サービスの詳しい情報は

<http://www.franklinjapan.jp/>